

平成 23 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課

I 病害虫の発生概況

春から梅雨時期にかけて降雨および少ない日照時間により、病害の発生が懸念され、イネいもち病、ぶどうべと病等の注意報が発表された。梅雨明け後は、台風や前線、湿った気流などの影響により各地で大雨となったため、病害の発生が懸念されたが、いちごの炭そ病の注意報が発表された他は、ほとんど注意報は発表されなかった。

害虫は、今年は梅雨明けが早く、例年より早い7月上旬から高温となったため、斑点米カメムシ類の発生量が多く、東北から中国にかけて注意報が発表された。また、9月頭からは、ハスモンヨトウの注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

II 天候経過の状況

1 冬期間（平成 22 年 12 月～平成 23 年 2 月）の天候：

1) 平均気温

冬型の気圧配置が長く続き、気温の低い時期と寒気の影響が弱く気温の高い時期との対照が、全国的に明瞭だった。12月終わりから1月末にかけては、日本付近に強い寒気が断続的に流れ込んだため、冬型の気圧配置がおおむね持続してほぼ全国で気温が低かった。寒気の影響は西・南ほど強く、西日本と沖縄・奄美では1月の気温がかなり低くなった。それ以外の期間では冬型の気圧配置は長続きせず、特に12月前半と2月後半は日本付近へ強い寒気が流れ込むことがほとんどなかったため、全国的に気温が高かった。なお、沖縄・奄美で冬の気温が低くなったのは、平成7年～8年冬以来15年ぶりだった。

2) 降水量

日本付近に強い寒気が断続的に流れ込んだ12月終わりから1月末にかけては、山沿いでは3メートルを超える積雪の所もあったほか、アメダスを含む22地点で積雪の深さが観測史上1位を更新するなど、日本海側の広

い範囲で降雪量が多くなった。しかし、平年降雪量が多い2月が少雪だったため、冬の降雪量は北日本の日本海側では少なく、東日本の日本海側は平年並にとどまった。

3) 日照時間

1月は、冬型の気圧配置が卓越して、日本海側では曇りや雪または雨の日が、沖縄・奄美では曇りや雨の日が、太平洋側では晴れの日が多かった。東日本の太平洋側では、1月としては昭和21年（1946年）以降で第1位の多照だった一方、沖縄・奄美では1月としては昭和21年以降で最も寡照となった。

2月は冬型の気圧配置が続くことがなく、1月とは一変して日本付近への寒気の流入は弱かったため、北・東日本の日本海側では日照時間が顕著に多く、東日本の日本海側では2月としては昭和21年以降で第1位の多照となった。

2 春期間（平成 23 年 3 月～5 月）の天候：

1) 平均気温

全国で低く、特に西日本と沖縄・奄美では、かなり低かった。

期間の前半は、冬型の気圧配置となる日や冷涼な高気圧に覆われて西日本を中心に気温はかなり低かった。期間の後半は、天気は短い周期で変化したが、前線や低気圧、台風の影響により曇りや雨の日が多く、寒気を伴った低気圧の影響などにより、北日本を中心に低温となった。

2) 降水量

北・東日本の日本海側でかなり多かった。北・東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では平年並だった。

3月は、南から湿った気流が入りにくかったことなどにより、北・東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では降水量がかなり少なかった。

4月は、上空の強い寒気が日本付近へ南下し大気の状態が不安定となったため、局地的に激しい雨や雷雨となり、竜巻などの突風も発生した。

5月は、低気圧や前線および台風の影響により、全国的に降水量が多く、特に、前線や台風の影響を多く受けた東日本の太平洋側と西日本の太平洋側、沖縄・奄美では、昭和21年（1946年）以降5月としては降水量が多い方から第2位となった。

九州南部（23日ごろ）、四国地方、中国地方、近畿地

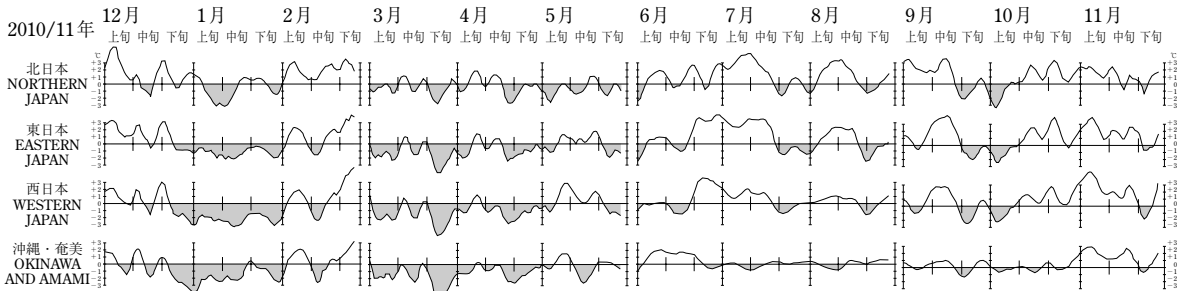


図-1 地域別平均気温平年差の経過 (5日移動平均) : 気象庁報道発表資料から抜粋

方 (26日ごろ), 東海地方, 関東甲信地方 (27日ごろ) では平年よりかなり早く梅雨入りした。また, 月末の27日から30日にかけて, 日本の南に停滞する梅雨前線と台風第2号の影響により, 北海道を除く全国各地で大雨となり, 福井県など記録的な大雨となったところもあった。

3) 日照時間

沖縄・奄美でかなり少なく, 北日本, 東日本の日本海側で少なかったが, 東・西日本の太平洋側で多く, 西日本の日本海側は平年並だった。

期間の前半は, 冬の気圧配置となる日や, 大陸からの高気圧に覆われた日が多く, 西日本を中心に多照となった。期間の後半は, 日本海を通る低気圧や前線の影響を受けることが多く, 日照時間は少なかった。

3 夏期間 (平成23年6月～8月) の天候 :

1) 平均気温

全国的に高く, 各地域でかなり高い時期があった。6月中旬は沖縄・奄美, 6月下旬は東・西日本, 7月上旬・中旬は北・東日本で気温が平年を大幅に上回り, 6月下旬, 7月中旬, 8月中旬を中心に多くの地点で猛暑日となった。これはそれぞれの時期・地域で太平洋高気圧の張り出しが強まったことに対応しているが, 梅雨のない北海道地方を除いたすべての地方で梅雨明けが早く, 奄美・九州南部・九州北部・四国地方以外ではかなり早かったために, 平年より早く真夏の暑さになったことも影響している。

また, 北日本から西日本では7～8月下旬など, 沖縄・奄美では8月上旬などに太平洋高気圧が弱まって気温が平年を下回る時期もあり, 太平洋高気圧の勢力の変動に対応して気温の変動が全国的に大きかった。

2) 降水量

西日本で多かったほかは, 平年並か少なかった。しかし, 台風や前線, 湿った気流等の影響により各地で大雨となった時期があった。6月中旬は西日本を中心に, 6

月下旬は北日本を中心に, 梅雨前線により大雨となった。また6月下旬は台風第5号の影響により, 沖縄・奄美でも大雨が降った。

7月は, 中旬に台風第6号により東・西日本の太平洋側で大雨となったほか, 7月終わりには, 前線が朝鮮半島から北陸地方を通して関東の東に停滞し, 前線に向かって非常に湿った気流が流れ込み, 大気の状態が不安定となったため, 新潟県と福島県会津地方では記録的な大雨が降って甚大な災害が発生した (「平成23年7月新潟・福島豪雨」)。

また, 8月は上旬に台風第9号の影響により沖縄・奄美で, 中旬は前線により北日本から西日本の日本海側で, 下旬には前線や湿った気流により東・西日本の所々で, 大雨となった。夏の台風の発生は10個 (平年11.1個), 日本に接近した台風4個 (平年5.9個), うち本土 (本州, 北海道, 九州, 四国) への接近は1個 (平年3.0個), 沖縄・奄美への接近は3個 (平年4.3個) と, それぞれ平年を下回った (速報値)。

3) 日照時間

西日本で少なく, 北・東日本と沖縄・奄美では平年並だった。

6月は, 西日本でかなり少なく, 北日本の日本海側, 東日本の太平洋側で少なく, 北日本の太平洋側, 東日本の日本海側, 沖縄・奄美では平年並だった。7月は, 北・東日本の太平洋側, 西日本の日本海側で多く, 北・東日本の日本海側, 西日本の太平洋側では平年並で, 沖縄・奄美では少なかった。8月は, 北日本の日本海側で多く, 北日本の太平洋側と東日本, 西日本の太平洋側および沖縄・奄美では平年並だった。一方, 西日本の日本海側では少なかった。

4 秋期間 (平成23年9月～11月) の天候 :

1) 平均気温

暖かい空気に覆われることが多かったため, 秋の平均気温は東・西日本, 沖縄・奄美ではかなり高く, 北日本

では高かった。

9月 は、中旬を中心に高気圧が日本付近で強まり東日本以西では晴れて気温が上がり残暑が厳しかったが、下旬には気温は平年を下回った。

10月 は、上旬は北日本から西日本にかけて平年を下回ったが、中旬以降は変動が大きかったものの平年を上回る日が多かった。

11月 は、上・中旬は、暖かい空気に覆われ全国的に気温が平年を大幅に上回る日が多かったが、下旬には平年を下回る日もあった。

2) 降水量

台風や低気圧等の影響により、秋の降水量は全国的に多く、北日本の日本海側、西日本の太平洋側ではかなり多かった。

9月 は、月のはじめは台風第 12 号の影響により、また下旬はじめは台風第 15 号の影響により、全国的に大雨となった。北日本では中旬にかけて前線や気圧の谷の影響もあり、降水量がかなり多くなった。

10月 は、天気はおおむね数日の周期で変わったが、西日本や沖縄・奄美では低気圧と湿った気流の影響で大雨となる日があった。

11月 は、西日本と沖縄・奄美では、低気圧や南からの湿った気流の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。

3) 日照時間

期間を通じて湿った気流の影響を受けやすかった沖縄・奄美ではかなり少なく、統計を開始した 1946 年以降最も少ない値を更新した（平年比：79%）。一方、9月に晴れの日が多かった東日本の日本海側ではかなり多かった。

III 作物別の病害虫発生状況の概要

1 水稲病害虫

病害：いもち病は、梅雨時期に好適感染日が確認され発生が懸念されたことから、6月後半に3道県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。また、8月に九州において葉いもちの発生が多く、穂いもちの発生が懸念されたことから、4県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

害虫：ウンカ類の飛来は、セジロウンカ、トビイロウンカともに例年に比べて少なく、その後の発生量も少なかった。

また、斑点米カメムシ類は、7月から東北、関東、北陸、東海、近畿および中国で発生が多く認められ、7月上旬～8月中旬にかけて21県から延べ24件の注意報、

1県から警報が発表され、防除が呼びかけられた。

なお、10月15日現在における水稲の作柄（平成23年10月26日農林水産省大臣官房統計部公表）は、全もみ数がおおむね平年並みに確保され、登熟もおおむね順調に推移していることから、全国の10a当たり予想収量は533kg（作況指数101）であった。

農業地域別の作況指数は、北海道が105、東北101、北陸101、関東・東山100、東海100、近畿99、中国101、四国99、九州100および沖縄83であった。

2 その他普通作物病害虫

麦：赤かび病は、麦類の開花期前後に降雨があり、1県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。赤かび病の発生は、北海道、甲信、中国の一部で多く、北関東、近畿、北九州の一部でやや多く確認された。

大豆：ハスモンヨトウは、8月から関東から九州にかけて発生が多く認められ、8月上旬以降に3県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

3 果樹病害虫

病害：ぶどうべと病は、5月下旬から関東から九州にかけて発生が多く認められ、5月下旬～7月中旬までに6県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

害虫：果樹カメムシ類は、例年に比べて発生量が少なく、9月上旬まで注意報は発表されなかったが、9月中旬に近畿で発生が多く認められ、1県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

4 野菜および花き

病害：いちごの炭疽病は、6月中旬以降から主に関東、近畿、中国、四国および九州で発生が多く確認され、7県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

害虫：さとうきびのイネヨトウは、4月下旬から主に沖縄で発生が多く確認され、6月下旬～7月上旬にかけて2県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。また、ハスモンヨトウは、7月から関東から九州にかけて発生が多く認められ、9月上旬以降に3県から注意報が発表され、防除が呼びかけられた。

本年の特殊報は、11月28日までに都道府県から73件発表されており、そのうち、ウイルス、ウイロイド病に関するものが21件であった。

野菜・花きのウイルス病の特殊報が発表されており、これらウイルス病の多くはアザミウマ類またはコナジラミ類によって伝搬される。虫媒伝染性ウイルス病の防除は、健全な種苗の使用、施設開口部への防虫ネットの設置による媒介虫の施設内への侵入防止および栽培終了後の蒸し込みによる媒介虫の殺虫処理等を総合的に組合せた病害虫防除対策が必要である。

表-1 病害虫発生・防除状況 (平成23年10月1日現在)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概評	発生面積 (注1) (前年比)	延べ防除面積 (注2) (前年比)				
(イネ)				黒星病	南東北の一部地域でやや多い	4 (453.5)	198 (241.9)
葉いもち	四国、九州の一部地域で多い～やや多い、東海、近畿の一部地域でやや多い	307 (80.4)	1,428 (104.1)	腐らん病	南東北、甲信の一部地域でやや多い	4 (97.7)	54 (168.9)
穂いもち	東海の一部地域で多い、九州の一部地域で多い～やや多い、北関東、甲信、四国の一部地域でやや多い	274 (105.5)	1,413 (101.1)	ハマキムシ類	平年並み	1 (108.0)	149 (259.0)
紋枯病	東北の一部地域で多い～やや多い、北関東、東海、九州の一部地域でやや多い	522 (93.5)	694 (105.1)	ハダニ類	北陸の一部地域でやや多い	8 (114.3)	128 (240.1)
白葉枯病	南関東、近畿の一部地域で多い、東海、中国の一部地域でやや多い	13 (118.2)	56 (59.8)	(ナシ)			
ばか苗病	東北、北陸の一部地域で多い、関東、東海、中国、南九州の一部地域でやや多い	18 (110.1)	916 (103.6)	黒斑病	平年並み	1 (97.3)	37 (98.8)
もみ枯細菌病	中国の一部地域で多い、東北の一部地域で多い～やや多い、北陸、東海、九州の一部地域でやや多い一部地域でやや多い	64 (188.2)	176 (70.3)	黒星病	北陸、中国の一部地域で多い～やや多い、北東北、北関東、甲信、東海、近畿の一部地域でやや多い	4 (94.7)	127 (97.5)
蒴葉枯病	関東、中国の一部地域で多い～やや多い、近畿、四国、北九州の一部地域でやや多い	79 (92.7)	—	ナシトメシクイ	関東の一部地域で多い～やや多い、北陸の一部地域でやや多い	1 (61.0)	59 (91.4)
稲こうじ病	南関東、北陸、近畿の一部地域で多い、関東の一部地域でやや多い	85 (59.1)	67 (73.1)	ハダニ類	北陸の一部地域で多い、南関東、甲信、近畿、中国、四国の一部地域でやや多い	5 (67.4)	36 (88.1)
ニカメイガ	南東北、北陸、近畿の一部地域で多い、関東の一部地域でやや多い	150 (100.4)	527 (90.6)	カメムシ類	北関東、近畿の一部地域で多い	1 (45.5)	20 (75.8)
セジロウンカ	四国の一部地域で多い、北陸、近畿、南九州の一部地域でやや多い	529 (58.2)	1,266 (101.3)	アブラムシ類	北関東、近畿の一部地域で多い、四国の一部地域でやや多い	6 (109.1)	39 (96.8)
トビイロウンカ	南九州の一部地域で多い、近畿の一部地域でやや多い	78 (45.4)	969 (103.8)	(モモ)			
ヒメトビウンカ	甲信、北陸の一部地域で多い、関東、近畿、四国、九州の一部地域で多い～やや多い、南東北、東海、中国の一部地域でやや多い	792 (108.0)	1,296 (102.1)	せん孔細菌病	甲信の一部地域で多い、北陸の一部地域で多い～やや多い、南東北、東海、近畿、四国の一部地域でやや多い	3 (104.6)	41 (101.5)
ツマグロヨコバイ	九州の一部地域で多い、東海、中国の一部地域で多い～やや多い、南関東、四国の一部地域でやや多い	553 (94.4)	954 (97.4)	灰星病	甲信、北陸、近畿の一部地域でやや多い	1 (129.2)	37 (110.0)
イネハモグリバエ	北陸の一部地域で多い	1 (28.3)	37 (93.7)	(ぶどう)			
イネドロオイムシ	関東の一部地域で多い、北陸、東海、中国の一部地域で多い～やや多い、北海道、北東北、近畿の一部地域でやや多い	231 (100.7)	659 (105.6)	晩腐病	北関東、甲信、東海、中国の一部地域でやや多い	2 (107.9)	44 (104.8)
斑点米カメムシ類	北陸、東海、南九州の一部地域で多い、東北、関東、中国の一部地域で多い～やや多い、近畿、四国の一部地域でやや多い	552 (98.9)	1,509 (106.9)	べと病	甲信、北九州の一部地域で多い、関東、北陸、近畿の一部地域で多い～やや多い、東海、中国、四国の一部地域でやや多い	6 (88.2)	67 (111.2)
アワヨトウ	東海の一部地域でやや多い	18 (261.2)	61 (164.1)	灰色かび病	北陸、四国の一部地域で多い、近畿、北九州の一部地域でやや多い	1 (104.7)	34 (117.4)
コブノメイガ	南関東、四国、南九州の一部地域でやや多い	141 (28.4)	477 (98.6)	(カキ)			
イネミスゾウムシ	南関東の一部地域で多い、近畿の一部地域で多い～やや多い、東海、四国の一部地域でやや多い	602 (95.5)	815 (100.0)	うどんこ病	東海、四国、中国の一部地域でやや多い	5 (71.7)	43 (94.9)
(ムギ類)				落葉病類	東海、四国の一部地域で多い、甲信、近畿、中国の一部地域でやや多い	6 (100.4)	45 (106.1)
さび病類	平年並み以下	5 (20.7)	207 (97.4)	カメムシ類	北関東、近畿の一部地域で多い、北陸の一部地域でやや多い	2 (27.5)	25 (67.7)
うどんこ病	中国の一部地域でやや多い	14 (45.1)	235 (93.1)	カクダアザミウマ	四国の一部地域でやや多い	1 (85.3)	19 (111.4)
赤かび病	北海道、甲信の一部地域で多い、中国の一部地域で多い～やや多い、北関東、近畿、北九州の一部地域でやや多い	76 (128.7)	502 (104.9)	(チャ)			
雪腐病類	南東北の一部地域でやや多い	32 (93.3)	94 (110.4)	炭そ病	南関東の一部地域で多い、東海、九州の一部地域でやや多い	29 (112.8)	76 (92.8)
(ジャガイモ)				チャノコカクモシハナキ	九州の一部地域で多い～やや多い、南関東、東海、近畿の一部地域でやや多い	13 (98.7)	60 (96.8)
疫病	北陸の一部地域で多い、中国の一部地域でやや多い	23 (99.0)	421 (84.0)	カンザワハダニ	南九州の一部地域で多い	23 (89.1)	86 (95.4)
(ダイズ)				(キュウリ)			
紫斑病	平年並み	4 (86.3)	62 (82.7)	べと病	四国の一部地域で多い、東北の一部地域で多い～やや多い、甲信、近畿、中国の一部地域でやや多い	4 (109.5)	29 (95.5)
べと病	北陸、東海の一部地域で多い、北関東、近畿、南九州の一部地域でやや多い	41 (104.3)	—	うどんこ病	関東、九州の一部地域で多い～やや多い、中国の一部地域でやや多い	4 (113.0)	28 (96.4)
葉焼病	東海、北九州の一部地域で多い、北関東、近畿、四国の一部地域でやや多い	23 (142.4)	2 (100.9)	(スイカ)			
アブラムシ類	北陸、南九州の一部地域で多い、北関東の一部地域で多い～やや多い、南東北の一部地域でやや多い	28 (127.5)	43 (90.4)	つる枯病	北陸、中国の一部地域でやや多い	2 (100.5)	23 (98.0)
ハスモンヨトウ	中国の一部地域で多い、北関東、近畿の一部地域で多い～やや多い、九州の一部地域でやや多い	37 (81.9)	74 (90.0)	(ハクサイ)			
ハダニ類	北陸の一部地域で多い、近畿の一部地域でやや多い	13 (103.4)	4 (206.4)	軟腐病	北海道、北関東の一部地域でやや多い	1 (67.0)	18 (95.0)
カメムシ類	東海の一部地域で多い～やや多い、北関東、四国、北九州の一部地域でやや多い	23 (93.5)	82 (86.2)	白腐病	平年並み	0.5 (21.1)	12 (97.9)
(カンキツ類)				(キャベツ)			
そうか病	南関東、東海、近畿、四国、南九州の一部地域でやや多い	9 (90.7)	72 (113.9)	黒腐病	南関東、甲信、近畿、中国の一部地域でやや多い	1 (52.2)	18 (93.0)
黒点病	九州の一部地域で多い～やや多い、東海、近畿、四国の一部地域でやや多い	48 (101.9)	214 (122.1)	コナガ	東北の一部地域で多い～やや多い、南関東の一部地域でやや多い	3 (91.0)	31 (95.5)
かいよう病	東海の一部地域で多い～やや多い、近畿、四国、九州の一部地域でやや多い	19 (142.9)	72 (142.6)	(タマネギ)			
ヤノネカイガラムシ	四国の一部地域でやや多い	3 (105.9)	67 (138.9)	べと病	近畿、北九州の一部地域でやや多い	2 (145.1)	13 (86.4)
ミカンハダニ	東海の一部地域で多い～やや多い、南関東、四国、南九州の一部地域でやや多い	46 (108.1)	163 (114.6)	(野菜共通)			
カメムシ類	南関東、近畿、南九州の一部地域でやや多い	5 (38.8)	36 (74.4)	冬春トマト	南関東の一部地域で多い	1 (79.1)	18 (92.8)
(リンゴ)				イチョブ	東海、中国の一部地域でやや多い、夏秋トマト	4 (101.6)	49 (100.9)
モリアナ病	北海道の一部地域で多い、北東北の一部地域でやや多い	1 (298.6)	51 (669.8)	イチョブ	北陸、東海の一部地域で多い、中国の一部地域でやや多い、冬春トマト	—	—
斑点落葉病	中国の一部地域で多い、東海の一部地域でやや多い	7 (109.6)	264 (230.5)	ハダニ類	近畿、北九州の一部地域でやや多い	2 (145.1)	13 (86.4)
				イチョブ	関東、南九州の一部地域でやや多い、夏秋ナス	7 (83.2)	42 (83.3)
				ハスモンヨトウ	中国、四国、北九州の一部地域でやや多い、夏秋トマト	7 (186.7)	62 (303.4)
				ヨトウガ	近畿、北九州の一部地域で多い、北関東の一部地域でやや多い、冬キャベツ	1 (68.6)	32 (89.1)
				(キク)			
				白さび病	中国、南九州の一部地域でやや多い	0.2 (82.7)	5 (93.6)
				アザミウマ類	東海の一部地域で多い～やや多い、北関東の一部地域でやや多い	0.4 (91.4)	5 (89.1)
				アブラムシ類	南東北、南九州の一部地域でやや多い	0.3 (79.6)	4 (93.5)

注1：標本抽出された調査定点ごとに定められた調査方法に従い病害虫発生度（無，少，中，多，甚の5段階）を算出し，調査地区内の栽培面積を各発生程度の割合に乗じて発生程度別面積を算出。無発生を除く。発生程度別面積「少」～「甚」を合算した数値。

注2：当該病害虫を対象として複数回防除を実施した場合や2種類以上の病害虫を対象とする混合剤による防除を実施した場合は，その回数や剤数を乗じて散布面積を算出した数値。

表-2 平成 23 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表年月日，斜体アンダーラインは警報）

(1月1日～12月1日)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	その他の病害虫
北海道		6/29		4/21		6/23 イネドロオイムシ
東北	青森				7/19	7/26 フタオビコヤガ
	岩手 宮城 秋田 山形 福島				7/14, <u>8/1</u> 7/22 7/13, 8/10 7/22, 8/10 7/14	
関東	茨城				7/20	8/3 フタオビコヤガ
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡				7/20 8/1 8/5 8/1	
北陸	新潟 富山 石川 福井				7/27 7/15, 7/29 7/15	
東海	岐阜 愛知 三重				8/2 7/15 7/14	
近畿	滋賀					7/11 ニカメイガ
	京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山					4/28 縞葉枯病
中国四国	鳥取				8/2	
	島根 岡山 広島 山形 徳島 香川 愛媛 高知			6/28	7/28 8/8 7/19	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		8/18 8/24 8/12 6/16, 8/10			4/20 縞葉枯病
沖縄						

(1月1日～12月1日)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			7/26 褐斑病 (てんさい)
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		
関 東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		5/16 赤かび病 (小麦) 8/29 作物全般 (アブラムシ類)
北 陸	新潟 富山 石川 福井		
東 海	岐阜 愛知 三重	8/9 (大豆)	10/5 吸実性カメムシ類 (大豆)
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/2 (大豆)	9/13 オオタバコガ (大豆)
中 国 四 国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/5 (大豆)	
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		7/7 イネヨトウ (さとうきび)
沖 縄			6/29 イネヨトウ (さとうきび)

(1月1日～12月1日)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北海道			5/12 灰星病 (おうとう), 9/5 モモンクイガ (りんご)
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		6/3 せん孔細菌病 (もも)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		6/24 ナシヒメシンクイ (なし), べと病 (ぶどう) 5/31 べと病 (ぶどう) 6/17 せん孔細菌病 (もも), 8/5 アメリカシロヒトリ (果樹類)
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		6/3 黒星病 (なし), 6/3 べと病 (ぶどう)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/16 (カンキツ)	6/27 せん孔細菌病 (もも) 7/29 炭疽病 (かき) 6/3 灰色かび病 (かき), 6/24 かいよう病 (カンキツ)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		6/28 べと病 (ぶどう) 6/21 黒点病 (カンキツ), 8/31 炭疽病 (かき) 6/7 黒点病 (カンキツ)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		7/1 べと病 (ぶどう) 7/15 べと病 (ぶどう)
沖縄			

(1月1日～12月1日)

④野菜・花き		ハスモンヨトウ	その他
北海道			6/9 コナガ (アブラナ科野菜), 6/15 アワヨトウ (イネ科植物)
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		8/29 炭疽病 (いちご) 7/11 斑点細菌病 (きゅうり)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		3/18 灰色かび病 (トマト), 8/22 炭疽病 (いちご) 8/29 アブラムシ類 (作物全般) 5/20 オオタバコガ (トマト, ナス) 6/30 黒斑細菌病 (アブラナ科野菜)
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		6/2 べと病 (ホウレンソウ), 8/31 灰色かび病 (トマト)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/2 (野菜類, 花き類)	9/13 オオタバコガ (野菜類, 花き類) 7/29 炭疽病 (いちご) 6/24 炭疽病 (スイカ)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/5 (野菜類, 花き類)	11/14 ハダニ類 (いちご), 11/28 ミナミキイロアザミウマ (冬春ナス) 8/3 炭疽病 (いちご)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		7/28 炭疽病 (いちご) 3/31 べと病 (たまねぎ), 7/15 炭疽病 (いちご) 1/25 斑点病 (ピーマン), 6/24 炭疽病 (いちご), 10/20 黄化えそ病 (きゅうり, メロン) 11/30 うどんこ病 (いちご)
沖縄			

(2) 特殊報

(1月1日～12月1日)

		①普通作	②果樹類 (茶を含む)	③野菜類 (花き類含む)
北海道		3/16 イネいもち病 (水稲), 3/24 コムギ萎縮病 (小麦 (秋まき小麦))		
東北	青森 宮城 秋田 山形 福島		5/24 スグリコスカシバ (クロスグリ), 9/6 ヒメボクトウ (りんご) 1/26 ブルーベリー-バルデンシア葉枯病 (ブルーベリー) 3/29 リンゴ葉巻萎縮病 (りんご)	2/16 タバココナジラミ バイオタイプ B (ポインセチア), 9/6 キオビトガリメイガ (りんどう) 10/27 炭腐病 (スイカ), 3/29 ポテトスピンドルチューバーウイロイド (ダリア), 8/25 トマトすすかび病 (トマト) 5/31 トマト黄化萎縮病 (トマト), 5/31 ポテトスピンドルチューバーウイロイド (ダリア)
関東	茨城 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	10/14 アワダチソウグンバイ (サツマイモ)	1/7 ナシシンクイタマバエ (日本なし) 10/26 チャノキイロアザミウマ (なし) 10/14 ナシ萎縮病 (なし), 4/13 チャノキイロアザミウマ (マンゴー), 9/14 ナシシンクイタマバエ (ナシ) 11/4 チャトゲコナジラミ (茶) 1/31 ブルーベリー-赤色輪点病 (仮称) (ブルーベリー) 10/14 スグリコスカシバ (クロスグリ) 10/5 フタモンマダラメイガ (なし)	3/23 ビーマン黒枯病 (ビーマン), 6/1 ホモノハダニ (ニンジン) 1/11 トルコギキョウ葉巻病 (トルコギキョウ), 7/8 トマトモザイクウイルス新系統 (トマト) 11/28 アジサイ葉化病 (アジサイ) 7/26 クロメンガタズメ (トマト, ナス) 10/14 アワダチソウグンバイ (ゴボウ), 6/17 ビーマン炭疽病 (ビーマン), 7/13 キュウリ退緑黄化病 (キュウリ) 5/2 アヤトビムシ (コマツナ) 11/17 キュウリ退緑黄化病 (キュウリ) 1/19 セルリー萎縮炭疽病 (仮称) (セルリー), 1/19 ニセタマナヤガ (レタス, セルリー等の葉洋菜類), 6/3 キク茎えそ病 (キク)
北陸	新潟 富山 石川 福井			11/18 タバココナジラミ バイオタイプ Q (トマト)
東海	岐阜 愛知 三重		1/14 イチジクヒトリモドキ (いちじく), 3/11 ヨシエナガキクイムシ (ナシ), 9/15 リンゴハナゾウムシ (りんご)	3/28 エゴマ青枯病 (エゴマ), 3/28 ポテトスピンドルチューバーウイロイド (ダリア), 3/28 メボウキ (バジル) 菌核病 (メボウキ (バジル)), 3/3 ネギえそ条斑病, タマネギえそ条斑病 (ネギ, タマネギ), 11/7 ミナミキイロアザミウマ (ナス) 4/13 トルコギキョウ葉巻病 (トルコギキョウ), 9/13 アカアシカタゾウムシ属 (キツク属観葉植物)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	10/26 ミナミアオカメムシ (水稲, 大豆)	10/26 ミナミアオカメムシ (果樹類)	10/14 トビイロシワアリ (キャベツ, ブロッコリー), 10/26 ミナミアオカメムシ (野菜類) 5/16 ビーマン炭疽病 (ビーマン), 6/13 トルコギキョウ葉巻病 (トルコギキョウ)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		4/5 イチジクモザイク病 (イチジク), 9/20 スモモ斑入果病 (スモモ) 7/8 フタモンマダラメイガ (ナシ) 1/7 キクビスカシバ (キウイフルーツ)	11/10 イモグサレセンチュウ (ニンニク) 3/31 ホウレンソウべと病 (レース 8) (ホウレンソウ), 11/21 トビイロシワアリ (アブラナ科野菜 (はなっこりー, キャベツ)) 3/18 ネギえそ条斑病 (ネギ), 3/28 ホモノハダニ (ニンジン) 5/11 キクノネハネオレバエ (ニンジン) 6/7 コミドリチビトビカスミカメ (シシトウ・ビーマン), 11/8 ブルースター青枯病 (ブルースター (ルリトウワタ))
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/18 ジャガイモシストセンチュウ (ばれいしょ)	5/20 モザイク病 (イチジク) 9/13 チュウゴクナシキジラミ (日本ナシ), 11/8 キクビスカシバ (キウイフルーツ) 11/30 チャトゲコナジラミ (茶) 2/25 マンゴーキジラミ (マンゴー)	3/31 ポテトスピンドルチューバーウイロイド (ダリア) 8/19 キク茎えそ病 (キク) 6/17 キク茎えそ病 (キク) 10/6 トマト黄化病 (トマト) 4/28 トマト葉かび病 (トマト)
沖縄				5/2 トマト茎えそ病 (仮称) (トマト)

IV 病害虫防除事業

1 ウリミバエおよびミカンコミバエ

ウリミバエおよびミカンコミバエの侵入リスクのある地域において侵入警戒調査を実施するとともに、これら害虫の侵入リスクが特に高い沖縄県においては、ウリミバエに対して不妊虫放飼、ミカンコミバエに対して誘殺板散布をすることにより、再侵入防止対策を実施している。

なお、沖縄県および鹿児島県においては、ミカンコミバエが侵入警戒調査用トラップに複数回誘殺されたことから、定着を防止するため、発生調査および薬剤散布などによる防除対策を強化して対応した。

2 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

鹿児島県指宿市においては、平成21年8月からアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象として、寄主植物の除去などによる緊急防除を実施しており、防除効果が認められたことから、現在、根絶を確認するための調査を行っている。

また、鹿児島県の喜界島においては、アリモドキゾウムシを対象として、沖縄県の久米島および津堅島においては、アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象として、不妊虫放飼などによる根絶防除を実施している。このうち、久米島のアリモドキゾウムシについては、防除効果が認められたことから、現在、根絶を確認するための調査を行っている。

3 カンキツグリーンング病

鹿児島県の喜界島においては、平成19年4月から発生調査、本病菌の媒介虫であるミカンキジラミに対する薬剤散布および感染植物の処分などによる緊急防除を実施しており、近年は感染植物が確認されていないことから、現在、根絶を確認するための調査を行っている。

また、鹿児島県の奄美群島および沖縄県の一部地域においては、根絶防除を実施している。

4 ウメ輪紋ウイルス（プラムボックスウイルス）

東京都青梅市などにおいて、平成22年2月から緊急防除を実施し、発生調査、本ウイルスの媒介昆虫であるアブラムシに対する薬剤散布および感染植物の処分などによる防除を行っている。

5 ナスミバエ

沖縄県の与那国島において、昭和59年に国内で初めて発生が確認され、平成16年には同島全域で定着が確認されたため、薬剤散布および不妊虫放飼などによるまん延防止対策を実施してきたところである。この結果、

防除効果が認められたため、平成23年4月から6月にかけて根絶を確認するための調査を実施し、同年8月に根絶を確認したことを公表した。

また、沖縄本島においては、平成22年12月に発生が確認されたことから、発生調査、薬剤散布および被害植物の処分などによるまん延防止対策を講じているところである。

V 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係の延べ面積は2,488千haとなる見込みである（計画値）。作物別では、水稲では46千ha、水稲以外（果樹、畑作物等）防除で7千ha、その他（播種・施肥等）1千haとなっているほか、ミバエ類の再侵入防止対策として2,434千haとなっている。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、937千ha（速報値）で、前年を3%下回る見込みである。作物別では、水稲では826千ha、麦では57千ha、大豆では48千ha、その他では6千haとなっている。

VI 農薬の出荷状況

平成23農業年度（平成22年10月1日～平成23年9月30日）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では0.1%増の194千tまたはkl、金額では0.9%増の3,319億円である（表-3）。

表-3 平成23年農業年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t, kl, 百万円, %）

用途		平成22 農業年度 出荷		平成23 農業年度	
		数量	金額	出荷	対前年比
殺虫剤	数量	71,261		69,941	98.1
	金額	98,313		95,643	97.3
殺菌剤	数量	41,270		42,797	103.7
	金額	74,811		75,210	100.5
殺虫殺菌剤	数量	21,764		20,222	92.9
	金額	34,466		35,379	102.6
除草剤	数量	54,322		55,810	102.7
	金額	110,465		114,740	103.9
その他	数量	5,610		5,616	100.1
	金額	10,956		10,899	99.5
合計	数量	194,227		194,386	100.1
	金額	329,011		331,871	100.9

農産安全管理課農薬対策室調査（農薬工業会加盟会社対象）。